様式 1

論文審査の結果の要旨及び担当者
Summary of the Dissertation Review and the Approval

氏名 Name	Lu Deting			
論文審査 担当者 Committee members		職　Title	氏名　Name	
	主査 Chair	大阪女学院大学教授	奥本　京子	
	副査 Member	大阪女学院大学名誉教授	Scott Johnston	
	副査 Member	大阪女学院大学教授	樋川　和子	

論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨
Dissertation abstract and summary of the dissertation review

論文の内容の要旨

本論文は、歴史的事象による根深いトラウマが、中国と日本の関係に如何なる影響を及ぼしてきたかを探るものであり、被害と加害の力学が癒しと関係修復を妨げているとする。トラウマが現在の紛争の根源であること、そして未来の暴力を予防するためには癒しが不可欠であることを示唆する。「内なる癒しから生まれる平和」という概念を導入し、平和の基盤としてのトラウマの癒しを提唱する。また、南京大虐殺や広島原爆投下などによる歴史的トラウマを中国人と日本人が認識し合うため、トラウマに対する意識を高め、共感共苦のある空間を創り出すことの重要性を強調する。心理療法、神経科学、平和研究からの洞察を統合することで、草の根の人間関係を再構築するための、ホリスティックでトラウマに配慮したアプローチが考案される。

第 1 章では、研究の背景と先行文献が、戦後の中日関係における歴史的争議、南京大虐殺とトラウマ・アウェアネスの欠如、「トラウマに配慮した／癒しを中心においたアプローチ」についてのそれぞれにおいて提示される。そして、研究目的と重要性、リサーチクエスチョン、研究方法論、鍵となる用語や概念について説明される。

第 2 章では、紛争解決、紛争和解、「調和から生まれる平和」、トラウマとその影響、についての理論的枠組が、ガルトゥングやキング、また道教思想などに依拠しながら、それぞれ示される。

第 3 章では、紛争、トラウマ、癒しといった概念の理論的統合が試みられる。「内なる癒しから生まれる平和」や、「内なる癒し」「他者との癒し」といった独創的な概念を提案している。

第 4 章からは、先行的な実践の数々を通じて、草の根における和解のイニシアティブを検証する。神戸と南京を結ぶ会、YMCA の日中韓平和フォーラム、東北アジア地域平和構築インスティテュート、そして「南京を思い起こす」プログラムについての詳細に分析し、意義を認識した上で批判的考察を行う。

第 5 章では、自身が提唱する「南京を再訪する」の試みを立案、その内容を詳細に論じる。1 つ目は、歴史を如何に新しいナラティブによって語ることができるかについての教育的方法、2 つ目は、トラウマ・アウェアネスをどう養成するかについての芸術療法的方法、3 つ目は、トラウマの癒しについての身体的方法、のそれぞれが参加型ワークショップの中で展開されることで、歴史に取り組むことが具体的に成立しうるとの議論である。最後に、ワークショップの外部において如何なる関りや繋がりを模索できるかについて議論され、和解の実現性を探求しようとする。

最後には、当初、広島の原爆投下をも研究対象とする意図があったが十分に検証しきれなかったこと等、研究進行上、不十分であったことや今後の課題について触れている。

論文審査の結果の要旨

上記 3 名の論文審査担当者としては、一部の論文構成要素の扱いや英語表現についてなど幾つかコメントはあるものの、本領域における平和紛争学と心理学の統合的研究は大きな挑戦であったと評価するものである。本稿が本学大学院博士後期課程（国際共生）の論文として相応しい論稿であることを全員で認めるに至った。